

成年後見制度について

2020年8月5日

1. 全国の現状（地域後見推進プロジェクトの資料より）

- ① 利用状況 2019年現在で22万人（潜在ニーズの2%程度）
- ② 親族後見人 91%（創設時）⇒22%（2019年）
- ③ 申立て類型（2019年）：後見（74%）、保佐（19%）、補助（5%）、任意（2%）

2. 課題・問題点（同上より抜粋）

- ① 利用者数の伸び悩み
- ② 後見類型の割合が高水準のまま
- ③ 制度取組の温度差
- ④ 根絶できない不祥事
- ⑤ 信託の急増

3. 一口後見人プロジェクトの経緯

- ① 立ち上げ：2012年
- ② メンバー：医療、福祉、士業、当事者家族、金融関係、等々
- ③ 課題（障がい者の場合）：
 - ・高齢者と違い、年齢も若く、長期間に亘る支援が必要
 - ・障がい特性によっては後見人の交代（変更）はパニックの要素
 - ・親が支える⇒地域で支える（兄弟姉妹に託すのは違う）
 - ・制度利用へのハードル（手続き、金銭、信頼、等）が高い
- ④ お気軽☆成年後見（宇部方式）の創設
 - ・必要とする人が
 - ・気楽に使い
 - ・後見人の運営も問題なくでき
 - ・必要な財源はみんなで集め
 - ・安心できる成年後見の仕組み
- ⑤ 財源を集める主な動き
 - ・寄付つき自動販売機の設置
 - ・募金箱の設置
 - ・募金活動（共同募金会 テーマ型募金認定）
 - ・企業とのコラボレーション（寄付つき商品）
 - ・一般市民によるスポンサー